

B-1 学習過程の工夫

「つかむ・考える・深める・まとめる」の段階において、言語活動を充実する活動内容や学習形態について下記のように明らかにすることができた。

「活用力」をつける学習過程（授業の進め方）

学習過程	活動内容	学習形態	教師の手だて
つかむ	問題把握	個別	提示の工夫、見通し
↓	↓	↓	↓
考える	自分の考えを持つ	個別 (ペア、グループ)	既習の活用、支援
↓	↓	↓	↓
深める	学びあい (表現、交流)	ペア、グループ (一斉)	教師のかかわり
↓	↓	↓	↓
まとめる	課題に対するまとめ	個別	ふり返し、評価

「つかむ」段階では、生徒全員が課題を把握し、1時間の授業の見通しを持つことができるように、生徒の興味を喚起するような課題提示の仕方を工夫している。

「考える」段階は、既習事項を踏まえ、自分なりの考えを持つ場面である。思考力、判断力を育むための大切な場である。全員が自分の考えを持つことができるように、考えるために必要な既習事項を確認したり、ヒントカードを用意したり、支援を工夫している。

「深める」段階は、一人一人が考えを伝え合い、仲間同士で、よい考えを追求するための場である。お互いの考えを聞くことにより、自分の考えを深めることができる。また、自分の考えを話すことにより、改めて自分の考えを見直すことができる。自分の考えを正確に伝えるために、言語活動の充実が求められる。

「まとめる」段階は、課題に対するまとめをする。学習内容の定着と大いにかかわる。次時の学習につながり、さらなる学習へと続くこと（学びの連続）が期待される。